

『今日こそ、富士山が文化遺産となった経緯と構成資産がどのような基準で選ばれたのか、話をしようかのう…』

『富士山は文化遺産候補となる以前、世界遺産にしようという働きが起こったでまっすん。けれど、世界遺産としては、認定されなかったという経緯があるでまっすん。世界遺産になれなかったことで、結果的に富士山の価値を見直す機会を与えてもらったでまっすん。』

『そうじゃな。身近な存在であるために、富士山が世界文化遺産に登録される以前は、富士山に対する価値について

説明できる人は少なかったじゃろう。しかし、文化遺産の登録に向けて様々な角度から調査が行われたんじゃ。富士山ヴィジョンには、「富士山は、日本を代表し象徴する日本最高峰の秀麗な円錐形の成層火山である。その荘厳で崇高な形姿は、日本人の自然に対する信仰の在り方や日本に独自の芸術文化を育み、長い歴史の中で日本人の心の拠り所となってきた。」と、2016年1月、イコモスに提出された「富士山—信仰の対象と芸術の源泉—保全状況報告書」の前文に書かれているんじゃよ。』

『芸術の源泉としては、世界的に有名な葛飾北斎や歌川広重の浮世絵や、古くは8世紀に編れた日本最古の和歌集「万葉集」には、富士山を詠んだ和歌が見られ、また、「竹取物語」「伊勢物語」などの古典作品、俳句や漢詩にも題材として取り上げられているでまっすん。』

『古来、火山活動を繰り返す富士山は、山麓から山頂を仰ぎ見て崇拜する遥拝の対象となっていたんじゃ。文献資料に見る富士山の噴火災害の記録は8世紀に遡るんじゃ。火山活動の活発化は、鎮火の祈りを行うために浅間大神を鎮座することに繋がったんじゃよ。』

『12世紀以降、修験道と呼ばれる宗教者たちは、富士山を山岳修行の地として、直接富士山へ登拝を志すようになったでまっすん。14世紀~16世紀になると、道者と呼ばれる一般の信者たちが、富士山への登拝を果たすようになったでまっすん。また、道者の案内や世話を務めた御師活動が活発化し、彼らが住む北東麓の上吉田（富士吉田市）や河口が御師集落として繁栄したでまっすん。山頂の信仰遺跡群が整備されたのも、この時代だったでまっすん。』

『17世紀になると、富士山域及び人穴などで修行した長谷川角行を祖とする富士講が誕生し、角行の修行の場と伝わる人穴・内八海・外八海などがその霊場とされて、これらを巡る巡拝という信仰形態が広まったんじゃな。19世紀になると富士山信仰の神道化が進み、特に明治政府が成立すると、山頂の信仰遺跡群をはじめ山域の処々に祀られていた仏像の多くが撤去され、それらを祀った堂宇は神社に改められたんじゃよ。このように、時代とともに信仰形態が変化しながらも、富士山に対する篤い思いは変わっていないんじゃ。今回は、報告書を中心に話を進めてしまったので、構成資産の話までできなかったのう・・・次回じゃな・・・』『富士山についての復習になって良かったでまっすん。』



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)

クニマッスン
出生地 忍野村
山梨県水産技術センター
□癖 でまっすん…

